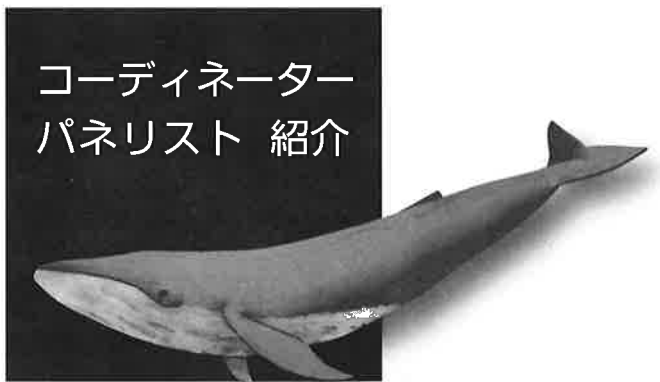


コーディネーター パネリスト 紹介



「古式捕鯨研究から見えてくるもの」



中園 成生 なかぞの しげお

平戸市生月町博物館・島の館 学芸員

1963年生まれ。熊本大学文学部卒（民俗学専攻）。呼子町教委を経て、現在平戸市生月町博物館・島の館学芸員。主な研究分野は捕鯨史とかくれキリシタン信仰。著書は『かくれキリシタンの起源』（弦書房、2018年）、『日本捕鯨史概説』（古小島社、2019年）など。

「紀州熊野の古式捕鯨とは何か」



櫻井 敬人 さくらい はやと

太地町歴史資料 学芸員

1971年生まれ。ニューベッドフォード捕鯨博物館アシスタント学芸員を経て、現在太地町歴史資料室学芸員。共著『太地水産共同組合の百年』（太地町教育委員会、2019年）、共訳『クジラとアメリカ』（原書房、2014年）、『海を越える太地の一世紀』（『歴史と民俗29』2013年）など。

「呼子・小川島漁場での古式捕鯨業」



安永 浩 やすなが ひろし

佐賀県立名護屋城博物館 学芸員

1975年生まれ。九州大学文学部史学科卒。教職を経て、現在佐賀県立名護屋城博物館学芸員。玄界灘における捕鯨業の変遷を研究している。編著書に『くじらといきる 西海捕鯨の歴史と文化』（名護屋城博物館企画展図録）、『鯨取り絵物語』（共著、弦書房）、その他唐津・東松浦地域の捕鯨史に関する論文多数。

「古式捕鯨を支えた人びと ―納屋場の比較を通じて―」



古賀 康士 こが やすし

九州産業大学経済学部 講師

1980年生まれ。九州大学大学院人文科学府博士課程単位取得退学。現在、九州産業大学経済学部講師。専門は、捕鯨史、貨幣史、など。主な論文は、「西海捕鯨業における巨大鯨組の経営と組織」（『地域漁業研究』56-2、2016年）など。

「平戸藩益富又左衛門組の経営発展と巨大鯨組の取揚鯨」



末田 智樹 すえた ともき

中部大学人文学部 教授

1967年生まれ。岡山大学大学院文化科学研究科産業社会文化学専攻博士課程修了。博士（経済学・学術）。現在中部大学人文学部教授。専門分野は経済史、商業経営史、歴史地理学。江戸期の豪商経営や捕鯨業史、百貨店業史など。著書は『藩政捕鯨業の展開』（御茶の水書房、2004年）、『日本百貨店業成立史』（ミネルヴァ書房、2010年）、『老舗百貨店の接客法』（風媒社、2019年）など。

キ リ ト リ > <

《 申し込み用紙 》

日程、会場変更の場合は連絡しますので
連絡先は必ずご記入ください。

ふりがな	
名前	
住所	電話
E-mail	FAX
捕鯨や今回のシンポジウムについてコメントがあればお書きください	

※申し込み用紙の情報は、今回のシンポジウムの視聴者整理以外の目的には使いません。